読み物教材「みんなで夢を追いかける」（前半）

先日、とある特別支援学校へ学校見学に行ったとき、3年前の卒業生であるユウと再会しました。高等部3年生になり、元気に学習に取り組んでいました。そんなユウの姿を見ていると、3年前のクラスを思い出しました。

在校当時のユウは3年1組で生活していました。ユウは言葉を上手く話すことができず、知っている単語を耳を澄まさないと聞こえないくらい小さな声で話す生徒でした。机は教室の前の列、窓側から2番目の席。そこにしか座れない。突然走り出して教室を飛び出したり、大声を出したり、教室のドアを蹴ってガラスが割れることもよくありました。それでも、朝の会も帰りの会も、給食も掃除も、体育祭や文化祭などの行事もクラスの仲間と一緒でした。もちろん授業も一緒です。足し算や引き算などのプリントを持って、自分の課題かもしれないけれど、みんなと一緒に教室で勉強をしていました。

3年1組がスタートした日。ユウはいつもの席に座り、配られたプリントの端っこにユウの好きな車のメーカー名を書いています。ユウのことをあまり知らない子は、少し距離を置いていました。そんなユウと同じ班に、2年生のときから同じクラスだったカズとミキの2人がいました。3年生がスタートして数日が過ぎた頃、ユウに異変が起きはじめました。教室を飛び出す回数が増え、大声を出したり、ガラスを割ったりという行動も増えます。そのうち、落ち着くだろうと思っていたクラスの仲間たちもエスカレートするユウの姿に困惑し始め、班長会のテーマもユウに関することが増えていきました。そこで立ち上がったのがカズとミキの2人。2年のときユウと共に学習や行事に取り組んできたカズとミキは、ユウに積極的に関わろうとします。

カズは口数は少ないが、正義感が強く、いつも班長に立候補したり、体育祭ではブロック長をしたりする生徒でした。カズは、ユウが教室から飛び出さないようにイスに座らせたり、ガラスを割らないよう押さえたり、授業中のプリントをさせたり、大声を出さないように注意したりしていきました。

その結果、ユウは

ユウにとっても、カズにとってもいい経験になったと思います。